「テレジン」への想い　野村路子さん講演　１１日ウエスタ川越で

川越市制施行１００周年記念事業「いのち　平和　そして出会いのコンサート」が１１日ウエスタ川越で行われた。

アウシュビッツ収容所への待合室といわれたテレジン。「テレジン収容所の幼い画家たち展」を３０年間、全国各地で展開、「テレジン」で懸命に生きたこどもたち、いのち、平和を大切さを語り継ぐ野村路子さん。テレジンの知名度不足、理解されていないことを憂いて、人々に語りかけている。当時テレジンには１５０００人のこどもたちがおり、戦争が終わったときにはその数が２００人に減ってしまった。（減ったというのはガス室などで虐殺されたこと）。生き残ったこどもたちにもあった野村さん。「生き残っても心の傷は消えない。こどもたち１０００枚の絵には１０００枚の想いがあり、絵から聞こえるこどもたちの声を聴いてほしい」と。

ロシアによるウクライナ侵攻の終息は見えていない。戦争でまっさきに被害にあうのは、こども、女性といいた弱者だということ。世界平和に向けて、しっかりと向き合っていかねばならない。